

没後200年記念

増田雪舟展

MASHI
YAMA
SAI

虫好き大名、

今日も描く。



2019
4/20 sat
6/16 sun

休館日 毎週月曜日

(但し4月29日、5月6日開館、5月7日火)

開館時間 午前9時30分〜午後5時

(入館は午後4時30分まで)

主催 三重県立美術館、朝日新聞社

助成 公益財団法人岡田文化財団、

公益財団法人三重県立美術館協力会

特別協力 国立文化財機構文化財活用センター、

東京国立博物館

後援 桑名市、桑名市教育委員会

※会期中、作品の展示替えを行います。

Mie Prefectural Art Museum
三重県立美術館



増田雪斎(虫笈帖) 東京国立博物館所蔵 Image:INM Image Archives
増田雪斎(猫図七言絶句) 文化11年(1814) 個人蔵
増田雪斎(草花蜻蛉図) 個人蔵



伊勢国長島藩第5代藩主・増山正賢（1754-1819）は、書画に長けた文人大名として、「雪齋」の号で知られています。画は、清の沈南蘋に私淑し、山水人物から花卉草虫に至るまで、数多くの作品を遺しました。とりわけ、虫類を真写した博物図譜、南蘋流の花鳥画にみられる表現の精緻は、

高く評価されてきました。雪齋の細やかな写生は、江戸博物学の発展という時代背景とともに、愛護の心に富んだ人格によるものといえます。雪齋の師友に対する情はあつく、江戸詰のお抱え絵師の春木南湖を長崎に遊学させて、来船清人・費晴湖に画を学ばせるなど厚遇し、また大坂の木村兼葭堂が零落した時は、しばらく領内にて庇護し、その苦境を支えました。藩も身分も越えた親交は、雪齋の文人的教養を高めるにとどまらず、長島藩の文化振興にも影響を与えました。本展覧会では、没後200年という節目の年にあたって、雪齋の業績を顕彰し、雪齋の画業をたどる作品、雪齋とこの地に関わりのある画家の作品を広く紹介します。

- ① 春木南湖（雪齋公肖像画）部分 文化14年（1817）個人蔵、② 増山雪齋（老松泉鳥図）寛政4年（1792）個人蔵
- ③ 増山雪齋（黄菊葵に翡翠図）個人蔵、④ 木村兼葭堂（兼葭堂日記）羽間文庫本、大阪歴史博物館蔵
- ⑤ 増山雪齋（虫考帖）東京国立博物館蔵

夜中、窓の前にとまった
ミミズクを描きました。



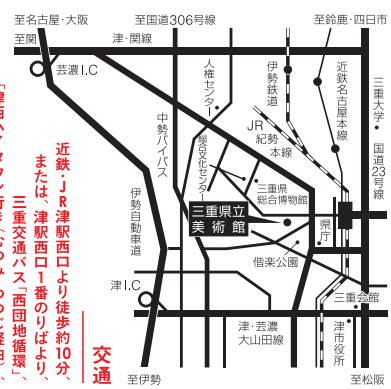
雪齋は、花や鳥などの絵が得意でした。



雪齋の親友、
兼葭堂の日記。



Image: TNM Image Archives



近鉄 JR津駅西口より徒歩約10分
または、津駅西口1番のりばより、
三重交通バス「西田地循環」
「津浦ハイタウソウ行き（つみづつじ経由）」
「夢が丘団地行き（総合文化センター前経由）」
「総合文化センター行き」のいずれかに乗車約2分
美術館前下車徒歩約1分
美術館前下車徒歩約1分

Mie Prefectural Art Museum
三重県立美術館
〒514-0007 三重県津市大谷町11
TEL 0591-22712100
FAX 0591-22310570
<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>
Follow us on Twitter @mie_kenbi

観覧料
一般 900(700)円、学生 700(500)円
高校生以下無料

（ ）内は、前売りおよび20名以上の団体割引料金
●この料金で常設展示もご覧いただけます。
●学生の方は生徒手帳・学生証等をご提示ください。
●障害者手帳等をお持ちの方および付添いの方1名は観覧料無料。
●家庭の日（毎月第3日曜日）は団体割引料金となります。
●主な前売り券販売所：チケットぴあ、セブンイレブン、ファミリーマート他

2019年7月6日（土）- 9月1日（日） デンマーク・デザイン展
次回企画展

●ギャラリー・トーク
本展担当委員が、展覧会や作品の魅力についてお話しします。
観覧券をお持ちの上、企画展示室にお集まりください。約20分。

5月11日（土）、6月8日（土）午後2時から
事前申込不要・聴講無料

●特別講演会
「雪齋 風雅を愛でる」
5月18日（土）午後2時から午後3時30分
（午後1時30分開場）

講師：山口泰弘（三重大学教育学部教授）
会場：三重県立美術館講堂
定員：150名 / 聴講無料・事前申込不要

